

BrightEyes

瞳を輝かせて

輝

目標があるから楽しい

日本モノスキー協会第18回モノスキー大会に親子で出場

岩井彰さん・敦くん・茜さん（三好上）



▶▶▶プロフィール

いわい・あきら 昭和38年生まれ。パーカッション奏者として活動し、三好演劇塾の音楽を担当する。

あつし／あかね 平成4年生まれの双子。三好中学校1年生。敦くんの趣味は将棋。茜さんは幼少よりバレエを習う。

モノスキーは、1本の板に両足をそろえて滑る、スキーの経験者でも難しいと言われるスポーツです。今回は3月5日・6日に長野県戸隠とがくしスキー場で開催された日本モノスキー協会第18回モノスキー大会に出場した岩井さん親子を紹介します。

毎年行われるこの大会は、全国のモノスキー愛好家が広く出場できるもの。レベル別クラスのスラロームでタイムを競います。昨年の大会から参加する父・彰さんはエキスパートクラスに出場。成績を8位から5位に上げました。「競技人口が少ない分、上位は常連ばかり。しかしだんだん勝負ができる

ようになってきました」と彰さん。今大会が初出場の敦くんと茜さんは、周りですべて大人の選手ばかりの中での参加で、順位は中級クラスの最下位でしたが堂々の滑りを見せました。



大会での父・彰さんの滑り

「上位の人と張り合えるようにもっと上達したい」という気持ちが高まりました」と敦くん。また茜さんは「レースはとても難しかったです。まずは転ばないようにと臨んだので、完走できたことが良かったです」と振り返ります。

幼少のころからスキーをしている彰さんは、検定1級を持つ腕前。また敦くんと茜さんは彰さんの影響でスキーを始め、現在敦くんは3級、茜さんは4級を保持しています。「スキーはこれ以上は変化もないと感じていたところ、スキー場のレンタルでモノスキーを見つけた。やってみてすぐに滑れる自信がありました。が転んではかり。しかし日増しに上達していき、その夢中になれる感覚が楽しかったんです」と彰さん。敦くんは「初めは本当に滑れるようになるか不安でしたが、父やほかの経験者に教わりながらどんどん滑れるようになっていき、スキーの世界が広がりました」と笑顔で話します。彰さんは「これからも大会に出場します。モノスキーがもっと広まって、大会が盛り上がっていけばいいと思います」と瞳を輝かせます。



▶▶▶プロフィール

つかもと・つぎお 昭和4年生まれ、75歳。教育委員、固定資産評価委員、新屋区長などの役職を務める。平成10年まで新屋区史編さん委員長としてほかの委員とともに、およそ7年の歳月をかけて苦勞の末に区史を完成させる。文化協会の狂俳部会に所属。岡崎市など町外の狂俳部会や機関紙などの句を選ぶ、選者を務める。

みつけたみよしの
はつらっさん

探究心をいつまでも忘れずに

塚本 次夫さん（新屋）

ビニールハウスでほとんど毎日、出荷用の野菜の苗作りに汗を流す塚本さん。ナスやスイカなど夏の作物を中心に、出荷に向けて現在大忙しです。「やりがいがありますよ。長年やってきた意気込みみたいなもので、もっと良いものを作りたいという気持ちには終わりがありません」と苗作り50年の経験と知識を存分に注ぎ、生き生きとした葉をつけた苗を育てています。

塚本さんが情熱を注ぐもう一つのものが狂俳。今年1月に行われた愛知県狂俳大会では、県知事賞を受賞しました。「奥が深い世界です。ふとした瞬間に句が思いつくので、句帳を持ち歩いていきます。狂俳を通して、今までたくさんのお会いや経験ができました」とにっこり。「いつも生活には張りがないとね」と話す塚本さん。これからも素晴らしいもの作りを期待しています。



みよしっ子

三好中学校

剣道部

今回は三好中学校の剣道部を紹介します。顧問の岩田智先生と部長の岸野広くんに話を伺いました。



気合いの入った声、激しく竹刀がぶつかり合う音が響く武道場。剣道部は有段者の岩田先生の指導の下、6人で厳しい稽古を積んでいます。「普段は明るく元氣な部員ですが、練習はピンと張り詰めた雰囲気の中、みんな真剣そのものです」と岸野くんは話します。自ら部員と全力でぶつかり、稽古をつける岩田先生。「精一杯頑張つてやり通すこと、段位や大会での勝利で自分の成長を感じてほしいですね。この経験をこれからの人生にも生かしてもらえたら」と激励します。

厳しい稽古の中で、何かをつかみ取るうと臨む岸野くん。「これから夏にかけてたくさんのお大会があります。まずは一本取ることを大事に、試合のラスト1分のきついつきこそ、自分に打ち勝てるような精神力を磨きたいですね」と鍛錬を続けます。(3月24日取材)